事例No.	1290
公表年度	R1
団体の属性	町村
団体名	岩手県住田町

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・副業・兼業活用

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

すみたサテライト事業

出典

関係人口創出・拡大事業（裾野拡大型・裾野拡大（外国人）型）成果報告会

1.地域概要・地域課題・事業に取り組む背景

地域の概要

地域名：岩手県気仙郡住田町
人　　口：5,366人（内外国人106人）※R2.1.31

- 本町は、周囲を６市に囲まれており、いずれに移動する場合には峠を越えなければならない状況にあり、仙台藩時代に世田米地区（世田米駅）は、「盛街道」の宿場町として繁栄した歴史を有している。冬は暖かく夏は涼しい気候となっており中山間地のため個々の農地面積は大きくないが工夫しながら農作物を生産している。
- 四方を標高600～1,300mの山々に囲まれ、総面積の90%までが峻険な山地で占められており、その51%が人の手で植えたスギやカラマツの人工林であり豊富な森林資源に恵まれている。「森林・林業日本一のまちづくり」を打ち出し、住田町ならではの森林（もり）業を地方創生の力とすべく取り組んでおり、役場庁舎や消防署を木造にこだわって建設している。
- 町内に現存する土蔵は中心地域に架かる橋の周辺に多く集まり、対岸から見る蔵並は本町を代表する景観となっている。また、今では全国でも希少になった木製の一本橋「松日橋」は橋脚と10mの渡し板４枚で作られた橋となっており、抒情的なスポットとして注目を浴びている。

解決したい地域課題

- 人口減少や高齢化の進行によって、遊休農地や空き家が目立つようになっており、地元に残りたくても、働く場所はあるが望む働き場所が少ないため、若者を中心に転出する者が多く、地域づくりの担い手が不足し、交流機会などが減少するとともに、地域全体の閉塞感が増加している。
- 地域外の人からは評価が高いものであっても、地域内では埋もれがちな伝統文化などの継承活動の停滞が進んできている。

本事業に取り組むに至った背景

- 「新たに仕事を起こす」「多数の小さな仕事を組み合わせる」といった仕事を創り出すノウハウを持った地域外人材に関わっていただくことで、「無いモノづくり（仕事づくり）」に挑戦する者、「古くからの仕事を新しい形」で継承する若者が増え定住し、また、サテライトオフィスなどを利用することで、仕事を持ち込み定期的に訪れる地域外人材と地域内人材がつながり、新たな「地域づくり（みがき）」が生まれる環境を整えるため事業に取り組むこととなる。

2. 事業概要

●事業概要

＜ターゲット＞
- 住田町との関わりが弱い都市住民等

＜概要＞
- 都市部で説明会を開催し、説明会参加者に関わってもらいたい事業とサテライトオフィスなどの提案を行い、住田町に関心を持ってもらい、事業参加者」となることへの賛同を得る。
- 「事業参加者」となった方々の住田町への想いを共有しながら、「すみた現地ツアー（視察等含む）」の企画を一緒に行う。
- 地域に関心を持つ地域外の人材等との多様な関わりに継続性を持たせるべく、地域内団体等との意見交換の場を設定する。

＜実施事項＞
- 説明会及び事業提案　３回開催
- すみた現地ツアー　　２回開催

●地域の理想の姿

- 「新たに仕事を起こす」「多数の小さな仕事を組み合わせる」といった仕事を創り出すノウハウを持った地域外人材に関わっていただくことで「無いモノづくり（仕事づくり）」に挑戦する者、「古くからの仕事を新しい形」で継承する地域内の若者が定住し、課題が解決に向かう或いは解決できるという体験と意識を持って地域づくりに取り組む。

●理想を実現するための本年度事業の位置づけ

- 地域づくりは人づくりと言われるように「関係人口（地域外人材）」との交流から生まれる地域内人材の新たな仕組みづくり（町づくり）を成功させ、地域内の若者が定住し地域に活気を取り戻すための第一歩としたい。

●本年度の目標

- 説明会３回程度開催
- 説明会に延べ30人程度参集
- 現地ツアー参加者10名確保

3.事業実施体制・スケジュール

●事業実施体制（受け入れ体制を含む）

（実施体制）

- 住田町・・・委託事業の総括担当
- 一般社団法人ＳＵＭＩＣＡ・・・（中間支援組織）現地ツアーの企画運営、地域内人材との連絡調整
- 株式会社ジオコス・・・（関係案内人）説明会の企画運営、事業参加者のサポート
- 一般社団法人Work Design Lab・・・（関係案内人）説明会の企画運営、事業参加者のサポート
- 地域団体等・・・現地ツアー時の意見交換

（受け入れ体制）

- 現地ツアー等参加者が決定次第、関係案内人と中間支援組織が連携して参加者の希望する内容等を共有した後にマッチングする地域内人材に連絡し行程を企画する。その企画により運営する際に役場も協力する体制を構築している。

●スケジュール

実施事項	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
1 説明会及び事業提案										準備・周知			説明会			準備・周知			説明会														
2 すみた現地ツアー																						準備		開催	準備		開催						
3 成果分析等																											分析報告						

- 当初10月に開催を予定していた現地ツアーは、台風の影響で1月に延期となった。

4.事業の「ターゲット」

●事業のターゲット

- 住田町との関わりが弱い都市住民等
- 複業（副業）に興味のある個人または企業

●参加者募集のターゲットの設定経緯

- 関係案内人と中間支援組織である一般社団法人ＳＵＭＩＣＡはつながりがあり、連絡調整や情報共有などがスムーズに行える環境が整っている。
- 関係案内人が持つ独自のネットワークなどにより、新たに関わりが弱い都市住民等を誘引することを可能であると考え、ターゲットとして設定する。

●ターゲットへの広報・アプローチ

【実施事項】

- 関係案内人がそれぞれ持つネットワークとＳＮＳにより説明会開催の広報を実施しました。

【成果・効果】

- 「住田町の関係人口創出事業の説明会」ではなく、「複業（副業）」をテーマに掲げ発信したことにより、テーマに興味を示した参加者が多数参加し、結果として住田町のＰＲにもつながりました。

（説明会実施状況）

- 東京会場：テーマとして、「複業」という働き方を通じて地方と関わる～岩手県住田町で「働く・暮らす・学ぶ」の未来を創る～を掲げ、63名の参加がありました。
- 名古屋会場：（企業向け）テーマとして、地方創生×人づくりで企業価値をあげる～岩手県住田町へ行ってみませんか？～を掲げ、13名の参加がありました。
- 名古屋会場：（個人向け）テーマとして、副業・プロボノ・ビジネスの相手として地方と関わる～岩手県住田町のまちづくり・教育・一次産業を起点に～を掲げ、16名の参加がありました。

5.関係人口の活動内容

●参加者（関係人口）が取り組んだ活動の内容

＜すみた現地ツアー（1回目）＞
【日程】令和元年12月20、21日 【参加者】１名
- 林業に関する取組について（座学）：住田町林政課職員
- 高校での取組について（座学）：教育コーディネーター
- 高校での取組について（見学）：岩手県公立高校
- 移住生活者との懇談：音楽活動、木製家具職人
- 住田町内見学：役場庁舎、消防署、一本橋など

＜すみた現地ツアー（2回目）＞
【日程】令和２年1月25、26日 【参加者】7名
- 住田町の取組について（座学）：住田町企画財政課職員
- 住田町の観光ビジネスの可能性について（座学）：地域おこし協力隊員
- 移住生活者との懇談：音楽活動・木製家具職人、子育てサークル・地域活動実践
- 一般社団法人の活動について：一般社団法人、SUMICA
- 住田高校の魅力づくりについて：一般社団法人

＜イベント開催＞
- 高校生対象（かたらっせん）
- 親子対象（楽描教室）

6.活動の成果

●本年度の目標達成状況

- 説明会開催・・・東京会場1回、名古屋会場1回
- 説明会参加者・・・延べ92名参加
- 現地ツアー参加者・・・参加者8名

✓ 説明会開催に向けた関係案内人との打ち合わせに時間を要したため開催回数は目標より少なかったが、関係案内人の周知方法が的確であったため参加者は目標を大きく上回った。地方での複業（副業）に関心が高い状況がわかりました。

✓ 現地ツアーについては、受け入れ側の日程を優先させたことから参加者の少ない回がありましたが、内容については参加者からは高い評価をいただきました。

●関係人口の地域との関わり方

- 地方に居住し創作活動などを行っているツアー参加者が、住田町への短期居住を検討しています。
- 参加者それぞれが住田町との関わり方を模索し始めており、必要な情報を送るなど関係性は継続しており、そのうちの一人から「自然資産をそれぞれ単体で宣伝するのではなく、観光ではなく体験を重視される会社さんとの取組で、パッケージで宣伝することにより、人を呼び込めないかと感じました。こういった会社さんのご紹介はできると思います。」とのメールをいただいている。観光ビジネスを模索している地域おこし協力隊の話を聴いたことによるアドバイスであり、実現に向けて協力していただきながら進めていきます。

●その他の成果

- モデル事業に取り組む中でつながった会社から「ワーケーション」への企業の関心が高まっていることを聴いたことから広域的な取り組みにつながるよう検討していきます。

7.課題への対応

●事業で直面した課題とその対応策･解決方法

＜役割分担と情報共有への不安＞

- 昨年度は役場担当職員と中間支援組織が話し合いながら事業を実施しましたが、今回は更に関係案内人が加わり、東京担当と名古屋担当に役割を分散させたことから情報の共有や打合せを密にできるかが課題となったが、web会議を実施することにより遠方に居ながら関係者全員で意見交換しながら事業に取り組むことが出来ました。

●今後の課題と対応方針

- 関係人口の創出・拡大に取り組むにあたって、地域住民の理解度を高めながら協力していただける体制づくりを進める必要性を感じました。広報誌や住田テレビなどを活用しながら浸透を図っていきます。
- 今回実施した説明会では、住田町の紹介や取り組んでいることを発表・意見交換しましたが、地域内人材が自分の取組に対する関係人口を求めに、首都圏等へ出向く場づくりの必要性を感じたことから、今後検討を進めていきます。

8.将来への展望

●来年度以降の関係人口とのかかわり方

- 今年度は種まき段階と捉えている。住田町を説明し実際に訪れて肌で感じていただいた。つながっていただいた方々は、ご自身のスキルやネットワークの中でどのように関わりを持てるか検討が進んでいることから、中間支援組織を窓口にしながら継続性を確保し、「実」なるよう取り組んでいきます。
- 現地ツアーに参加していただいた方々が住田町を説明し、更なる関係人口増加につながる場を首都圏で開催したいと考えています。

●「関係人口」施策の展望

- 一事業3年として取り組んでいることから、来年度も関係案内人及び中間支援組織に委託しながら事業を展開し「複業（副業）者」が住田町に関わっていく流れを構築していきます。
- 「複業（副業）者」は短期滞在となることが予想されることから、滞在する場所とサテライトオフィス的な場所の確保に向けた検討を進めていきます。